

第 29 回 小豆島町総合教育会議

【日時・場所】

○開催日時 令和 8 年 1 月 28 日（水） 午後 1 時 30 分～午後 2 時 6 分

○開催場所 役場本館 3 階 大会議室

○出席者 大江町長、坂東教育長、真砂委員、大山委員、照下委員

○同席者 【町職員】

古郷総務課長、小野こども教育課長、小野こども教育課課長補佐、藤本こども教育課主事

【教育関係者】

高橋小豆島中央高校校長、竹田小豆島中学校校長、武井池田小学校校長、伊丹星城小学校校長、濱元苗羽小学校校長、進藤こどもセンターセンター長、三好星城・安田・苗羽幼稚園園長、山口内海保育所所長、慈氏せいけんじこども園園長

○傍聴者 5 名

○事務局 3 名

【内 容】

【古郷課長】

お待たせをいたしました。

委員のお一人、脊尾委員さんが、所用のため、少し遅れるということでございますが、ご案内の時刻が参りましたので、ただいまから、小豆島町総合教育会議を始めたいと思います。議事までの進行を務めます、総務課長の古郷でございます。よろしくお願いいたします。

この総合教育会議につきましては、本日が 29 回目の開催となります。

会議は、構成員であります、町長、教育長、教育委員の 6 名で行うこととしております。

それでは、総合教育会議の規則第 4 条第 1 項、によりまして、総合教育会議は町長が招集し、議長となるというふうに規定されておりますので、この後の議事進行については、町長にお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【大江町長】

本日は、大変お忙しい中、総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。

約 2 年前に開催しました第 28 回総合教育会議で決定しました内海地区の小学校の統合につきましては、小豆島高校跡地に内海小学校の校舎の建築が進んでおります。

さて本日は、内海地区の公立幼稚園及び保育所のあり方につきましてご協議いただきたく、本日の会を開催させていただきました。

コロナ禍以降、出生数は激減しており、また施設の老朽化も進んでおりますことから、なるべく早い時期に幼稚園と保育所を統合しなければならないと考えております。

本日の会議で、今後の方向性につきましてご協議いただき、候補地につきましても検討したいと考えておりますので、委員の皆さまには、忌憚のない意見をお願いするとともに、意見の集約について、ご協力を賜りますようお願いいたします。

それでは、早速ですが、本町における現状や課題、また統合するとするならばその候補地などにつきまして事務局から説明をお願いします。

【小野課長】

こども教育課の小野と申します。私の方から資料の説明をさせていただきます。着座にて失礼いたします。

まず、1 ページをご覧ください。本町の現状としまして、小豆島町内にあります就学前教育・保育施設を掲載しております。まず、公立幼稚園は池田地区には、池田幼稚園があります。また、内海地区には、星城幼稚園、安田幼稚園、苗羽幼稚園、旭幼稚園、福田幼稚園があります。旭幼稚園、福田幼稚園は園児がいないため、休園となっております。また、星城幼稚園、安田幼稚園、苗羽幼稚園については、児童数の減少により、令和7年度より星城幼稚園にて合同保育を実施しております。そのため、安田幼稚園、苗羽幼稚園も園児の送迎バスの待ち時間のみしか使用しておりません。

各施設、昭和から平成初期にかけて建設されており、施設の老朽化が問題となっております。また、公立の保育所につきましても、池田保育所と内海保育所、内海保育所橘分園・福田分園がありますが、どの施設も幼稚園と同様、施設の老朽化が目立っております。老朽化に伴い、修繕箇所も増えており、今後も施設を維持するために多額の経費が発生するという問題点があります。

他の施設として、私立認定こども園であるせいけんじこども園や小豆島中央病院院内保育所あずきっこ、認可外保育施設になりますが、くさかべ保育園、小豆島病院のエンゼル保育所があります。

2 ページをお願いします。こちらは、本町における0歳～5歳の人口と、幼稚園や保育所を利用する子ども数を掲載しております。左側は、平成28年5月1日現在の人数で、以前に認定こども園をしようとしていた時期の子どもの数になります。右側は、令和8年1月1日現在の人数です。約10年で子どもの数は約200人減少しており、内海地区の幼稚園・保育所に通う子どもの数も半分の58人となっております。そのような状況から、内海地区の公立幼稚園・保育所を利用する子どもがかなり減少していることもわかります。

3 ページをお願いします。こちらは、施設や人数以外の問題点です。まず、共働き世帯が増加していることに対する保育ニーズの増加です。本町を含め、全国的に共働き世帯が年々増加しており、多様なニーズへの対応が今後必要になってきます。また、支援や配慮を必要としている子どもの数も、人口や出生率が低下しているにも関わらず増加しております。仮に、私立の保育施設でそのような子どもの受け入れが難しいと判断された場合、公立にて受け入れを行わなければならないため、公立の施設というものは今後にも必要になってくるかと思えます。

現在、星城幼稚園で合同保育を行っておりますが、子どもの数が減ると集団生活の中で子ども同士の関りが限られてしまい、集団生活から学ぶことのできる、家庭では得るこ

とができない社会性や協調性を学ぶことができなくなります。

また、現在各園に配置している職員を1か所に集めることにより、職員配置にゆとりができ、保育環境が充実できると考えます。

4 ページをお願いします。今まで述べました現状を踏まえますと、子どもにとって理想的な教育・保育環境であるとは言い難く、子どもや保護者にとってより良い教育・保育環境を充実していくためには、内海地区の幼稚園・保育所の再編が必要ではないかと考えております。

次に再編するとして、こども園を整備するための候補地につきましてご説明させていただきます。

5 ページをお願いします。1 番から 3 番までが現在整備しております内海小学校に統合される 3 つの小学校の跡地でございます。いずれも敷地面積は約 1 万㎡となっております。接続している道路は1 番の星城小が幅員 6.5m、2 番安田小が 4.0m、3 番の苗羽小は 7.0mとなっております。4 番目が現在整備している内海小学校の北グラウンドでございます。敷地面積は 8500 ㎡となっております。5 番と 6 番は町内にある建設可能であろうと思われる土地として草壁埋立地、内海総合運動公園をあげさせていただいております。

6 ページをお願いします。こちらは内海地区の幼稚園・保育所になります。一番敷地が広いのは星城幼稚園の 2842 ㎡で、1 番狭いのは内海保育所で 720 ㎡となっております。接続している道路は 7 番の星城幼稚園が 7.0m、8 番の安田幼稚園は 3.7mと狭く、9 番の苗羽幼稚園は 7.0m、10 番の内海保育所は 5.0mとなっております。参考として池田地区の小豆島こどもセンターの敷地面積は約 4500 ㎡となっておりますが、十分な広さとは言い難い状況でございます。

7 ページは各候補地の位置図となっております。

8 ページ、9 ページをお願いします。こちらは各候補地の安全性を比較したものです。まず、想定される最大震度につきましては、いずれの候補地も震度 6 程度となっております。土石流警戒区域に含まれているのが、星城小学校、星城幼稚園、内海保育所で、急傾斜地警戒区域に含まれているのが、安田小学校、苗羽小学校、内海総合運動公園となっております。また、津波による被害が想定されておりますのが、星城小学校、苗羽小学校、草壁埋立地、内海総合運動公園、苗羽幼稚園となっており、苗羽小学校、草壁埋立地では 30 cmから 50 cm、星城小学校では 50 cmから 1m、内海総合運動公園と苗羽幼稚園は 1mから 3mの津波が想定されております。液状化の危険性につきましては、町内の大部分が液状化する範囲に含まれており、苗羽小学校、内海保育所以外が該当しております。

10 ページをお願いします。これまでの説明を踏まえまして、候補地に求める要件としては、小豆島こどもセンターの約 4500 ㎡以上の面積があり、土砂・津波等の災害に対する安全性が高く、保護者が安全に送迎できる道路の面していることなどがあげられます。5 ページに戻っていただいて、この要件を満たす候補地となり得るのは、草壁埋立地と内海総合運動公園は除かせていただくとして、1 番から 3 番の 3 小学校の跡地と 4 番の内海小学校の北グラウンドとなると思われます。

以上で資料の説明を終わらせていただきます。ご協議のほどよろしくお願いいたします。

【大江町長】

はい。それでは、まず最初に今回、多分改めて、幼保を再編して公立の認定こども園を

作るということについて、今まではっきりとこの会議で決定はしてなかったと思いますので、まずは、内海地区の幼保を再編して公立の認定こども園に集約するということについて、ご確認をさせていただきたいと思います。真砂先生から。

【真砂委員】

その前にこの建物の年数書いてるじゃないですか、1 ページに。これで言うと、幼稚園というのは、小学校で 60 年とか何とか言われますけど、幼稚園の場合はどうなんかなっていうのと、せいけんじとかこっちの方は建築の年数書いてないんですけど、これ、これも、何かあるほうがいいんじゃないかなあと思うんですよね。

例えば建て替え関係っていうかね。そこら辺はどうなんですかね。

【大江町長】

いや、今回公立の幼保の再編ですので、民間の施設をどうこう言う話ではありませんので、あくまでも民間はもういいかなということでご理解いただけたらと思います。

【真砂委員】

いやもし、何でもそうですけど、建て替えのときにもうやめるというようなことがね、すごいお金かかってというようなことであるから、そういう意味で、何年、あと何年ぐらいが、その耐用年数とあるんですかね。

【小野課長補佐】

教育施設課の小野です。耐用年数についてなんですけれども、文部科学省の方で設定しておる、学校施設、保育施設につきましては、コンクリート構造物でしたら、60 年というふうに定められております。いずれも鉄筋コンクリート造ですので 60 年が適用されるのではないかなと思っております。

【真砂委員】

ということは何年が限度ということになるやろ。昭和 55 年だから、今 46 年たって、あと 10 年ぐらいはそのままいけるということはあるんですよね。

それと、どの大きさを建てるかいうあたりのところも、せいけんじとの兼ね合わせがあるのかなと思います。そういうことで、建築年数をちょっとお聞きした訳ですけど、私は、あと、今の現状が、星城幼稚園に集めて保育されている状況ですので、そういうことから考えると、やはり早いうちに、1 ヶ所にする方向で進めるほうがいいんじゃないかなと。保護者にとっても、きちっとしていいのかなと思います。以上です。

【大江町長】

大山先生。

【大山委員】

失礼します。今、説明を聞かせていただいて、現状、聞いていると、子どもも減ってきている。それから、老朽化っていうのは、特に施設を見せていただいても、もう古くなっ

ているのもすごく感じましたし、それは必要なことかなというふうに思いますが、ただ、再編については、私はいいと思うんですけども、新しい建物を建ててとなったときに、やっぱり多大な費用がかかると思います。で、そうなったときに、子どもの数の推移もここに出ているんですけども、10年間で約半分の数になっている。

そしてこの先、その先また10年でまた半分。そしたら、その10年間で、一体子どもの数が、子どもの数がというか再編したこども園に来る子どもってというのが、もし半分になって。ていうふうに考えていったときに、5年10年で終わってしまうような施設であれば、やっぱりちょっと考える必要があるのかなというふうには思います。

税金の無駄遣いと言えと言過ぎになるかもわからないんですけども、やっぱり税金を使って建てるので、そのあたりちょっとやっぱり慎重に考える必要があるのかなというふうに思っています。

それと、もう1つ思うのは、子育てをしている保護者の皆さん、特に幼稚園とか保育所に子どもを通わせている保護者の皆さんが、再編についてどのように考えているか。今の現状であれば、やっぱり新しいところがいいとか、今の現状のままでいいとか、いろんな意見があると思います。

やっぱり新しいものを作るのであれば、やっぱり保護者のニーズにこたえられるようなものを作る必要があるかと思いますので、やっぱりそのあたりは、実際に子どもを通わせる、保護者の方であるとか、それから今後、通わせる可能性のある今から子育てをしていくような世代の方に、やっぱり一応意見を聞いた上で、再編を進めていく必要があるのではないかなと思います。

ですから、それを行った上で、その結果を見て、再編を進めていくっていうふうな形をとった方が、やはり確実なんではないかなというふうに思いますし、保育所や幼稚園の場合は、小学校の場合は義務教育なので、必ず来させるっていうことなんですけれども、幼稚園や保育所の場合はそうではなくって、せいけんじさんもありますし、来させないという選択もありますから、そういうことをやっぱり、ちょっと考えた上で、この再編についてはやっぱり話を進めていくべきではないかなというふうに思います。以上です。

【大江町長】

はい。ありがとうございました。照下委員。

【照下委員】

はい。私は、認定こども園は必要じゃないかなと思っております。今、せいけんじさんでも、もう今マックスで、もう何か賄いきれないんじゃないかなという人数に達してると思います。

それで、認定こども園もないような町に移住をしてくる人も、少なくなったら困るので、ちゃんとした教育のできる幼稚園・保育所があれば、移住して来やすいんじゃないかなと思っております。

【大江町長】

坂東委員。

【坂東委員】

私、結論から言うとぜひ、公立の認定こども園として、内海地区の幼稚園・保育所を整備したいというふうに考えています。

理由といたしましては、先ほどから説明ありましたが施設が老朽化しているとか、子どもの数が非常に減っているというところで、教育委員会としても、適切に子どもたちを保育教育する環境にやっぱり弱いのかなあというところを感じてます。

できればきちとした形でこども園を整備して、保育士の、一方で不足いう問題もありますので、そのあたりも全体考慮すれば、魅力のある公立のこども園を整備したいと。

当然、建物をつくるだけではなくて、そこでどんな保育教育をしていくかということが、さっき大山委員が言われたように、保護者のニーズ等を確認しながら、どんなこども園をつくっていくかということも必要だと思いますが、1度平成28年にこども園を整備しようという話が頓挫して現在に至っておりますので、各施設の状況を考慮すると、ぜひ、早く認定こども園の整備を決定して、建設場所を決めて、それを計画している間に、どのような保育教育をしていくのか。ぜひ、せいけんじさんに負けないような、公立のこども園を目指していきたいというふうに考えています。

【大江町長】

はい、ありがとうございました。

私の考え方を言わせていただくと、私初代の子育ち共育課長だったんです。その当時から内海保育所は手狭で老朽化して、職員室もないという非常に劣悪な環境だったのを覚えています。

これを何とかしたいなということで、ちょっと別にいろいろ動いた経緯もあったんですけども、それも頓挫して、そのあと、私も異動しまして、平成28年からの総合教育会議で小学校の統合と認定こども園の建設を一応決めたということで、その後がパタッと、もう音沙汰がないというか、動きがない状態になって、今回内海地区の小学校の統合は、この会議で決めさせていただいて今建設が進んでいる。当時は苗羽小学校の跡地にこども園をとというような、平成28年のときはね、話だったと思いますけれども。そっからいろいろ状況も変わってるでしょうし、改めて場所については、決めたらいいなと思いますけど。いずれにしても公立の認定こども園を建てて、しっかりとした幼児のお世話、教育ができる方がいいなというふうに思っております。

大山委員のご意見もよくわかりますし、一応この会議では公立の認定こども園をつくることを前提として保護者のニーズ、それから、これから保護者になるであろう若い世代の方のニーズを聞きながら、規模とかどういったものにするかというのを決めていったらいいのかなというふうに思いますので、それでよろしいですか。

【複数の委員】

はい。

【大江町長】

はい。ありがとうございます。

それから、これについてそれぞれご意見があれば言っていたらと思うんですけど。

今度こっちから行きましょうか。

【坂東教育長】

平成 28 年に一旦こども園の整備の話があったときには、苗羽小学校のグラウンドに建設するという話がありました。この話が頓挫して、その後小学校の統合もしばらく時間を要して、現在建設中ということです。

来年、令和 9 年 4 月に統合小学校が開校するということで、星城・安田・苗羽小学校の跡地ができると。先ほど説明ありましたが、事務局から説明があったようにやはり候補地でしたら①の星城小学校から④の内海小学校まで、ここの 4 つが候補地になるのかなあと思います。

この中でどこがいいかということなんですけれども、私ももう教育委員会 20 年になります。小学校の統合から、このこども園の整備にずっと関わってきた経緯がありますので、私の思いとしたら、少し津波等の心配の面もありますけど、やはり、できたら地域の学校とか、こども園の配置のバランス等も考慮して、一番いいのは苗羽小学校跡地。そのあたりで、いろいろご意見をお伺いして、難しいというのであれば内海小学校のグラウンドかなと。ですから気持ちとしたら、苗羽小学校が一番で、次が内海小学校の敷地内というふうに考えています。

【大江町長】

はい。照下委員。

【照下委員】

私も同じ意見で、苗羽小学校の跡地にこども園を持っていく案がいいなと思っております。その理由としてですね、まず交通の便がよい。だから送り迎えの車の流れを作ることが可能であるということと、また、働く保護者の職場が近い人が多いのではないかと。ということで、子どもを預けてすぐに働きに行ける。また、何か緊急の呼び出しがあった場合も、すぐに迎えに行けるのではないかと。ということが挙げられると思います。

【大江町長】

はい。ありがとうございます。大山委員。

【大山委員】

私も今、自分の中でも決めかねているところはあるんですけれども、最初、苗羽小学校もいいかな。というのが体育館があるので、子どもたちが雨の日とか自由に遊べる体育館を残してそのまま利用、活用したらいいのかなというふうにも思っていたんですけれども。もう 1 つ、ちょっと最近考えてるのが、やっぱり小学校との連携とかを考えたら、内海小学校に隣接するっていうのが、そういうのもいいのかな。

どちらかというと、そちらの方が今ちょっといいのではないかなというふうに、ちょっと考え出しているところで、理由としては、やっぱり保幼小の連携、子どもたちの連携、子どもたちの交流だけでなく、教職員の連携も、非常に取りやすくなるのではないかなというふうに思います。

今、非常に支援が必要な子どもたちも増えているというふうな話もありましたし、今の小学校の現状であるとか、いろいろ子どもたちの現状を見たときに、そういうふうに思うところではあるのですが、照下さんが言われたように、交通の便であるとか、送り迎えのことを考えたら、少し不便な部分もありますし、せいけんじさんも近くにあるということで、同じようなところに2つの施設が同じような施設が、公立と私立で内容は違うんですけれどもあるという、保護者にしたら非常に送り迎えであるとか、非常にちょっと悩ましい部分ではあるのかな。

そういったところで、先ほどの話に戻るんですけれども、やっぱり保護者のニーズ、そのあたりはちょっと聞いてみる必要があるのかなというふうに思うところでありまして。以上です。

【大江町長】

はい。ありがとうございます。真砂委員。

【真砂委員】

はい。私は安心安全ということを考えると、一番は新小学校のところに建てるのが、一番。ところが、せいけんじが近くにあるというのが、これをどう考えるか。お互いに競争し合っていていいようになっていくというふうに捉えるのか。そこが、どうかなっているのがあって。苗羽小学校跡地も、体育館もあるし、いろんな面で教育環境的にもいい場所だと思うし。

ところが1つ、やっぱり津波関係が引っかかってくるなど。そういうところが、どちらがいいかという。それと私は、もう1つは保護者が西村から坂手から福田から、そういう点でちょうど真ん中にあるというように考えると、中学校のところ。中学校は今後どうなるかもあるんですけど、中学校に併設はできないんだろかなあというふうにも思います。中学校も低いですから、それは苗羽と同じかなあ。津波関係で言えば苗羽と変わらないなど。

その3つが考えられるっていうか、どれにしたらいいのかというのは、ちょっと今即答というのはないんですけども、一長一短があって、その3つのうちのどこかがいいんじゃないかなあというふうに今、思っております。以上です。

【大江町長】

坂東委員、中学校に併設にはあり得るんですか。

【坂東委員】

中学校は、この候補地に入れてないんですけども、面積的には、ここから見えますけど、グラウンドの中に建設は可能だと思います。

ただ、先ほど大山委員からあったように小学校と連携ということで、統合小学校の中につくって連携を取るということはあるんですけど、中学校につくった場合には、中学生とほぼそういう連携の必要もないですし、建設は可能ですけどかなり難しいのかなと。

中学校のグラウンドは苗羽小学校のグラウンドよりやはりかなり低いということもあって、事務局の中で協議した段階では、中学校併設はちょっと案には入れてないというの

が実情です。

【大江町長】

それと、去年の7月に南海トラフの地震の被害想定が変わったと思うんですけど、それは、これには反映されている。

【小野課長】

しています。

【大江町長】

はい、ご意見ありがとうございます。私も苗羽小学校か新小学校併設のどちらかだろうというふうには思っております。

で、今回いろいろご意見いただいたんですけど、その2ヶ所以外のところは、今後の検討に加えなくても大丈夫ですか。

【大山委員】

場所を考えるにあたって思ってるんですけども、新しいこども園ができた場合、中でどんな保育を進めていくか。保育内容、それから、どんなふうに運営をしていくか、そのあたりによってまた場所も変わってくるのかな。

さっきも言いましたが、小学校の連携を重視するのであれば小学校だし、聞いたところによると、移住の方とかは、自然の中で、自然に囲まれたところで子育てをさせたいからっていうふうなことで公立を選ぶ方もおいでるようなので、そういうことを考えたら、安田とか星城とか、そのあたりも自然というのを見みたら、ちょっとあるのかなというふうなところもありますし。そのあたり、場所だけを考えるのではなくて、どういったこども園にしていくかとか、どんな保育活動をしていくか、何を重視していくかっていうふうなところを、それも踏まえて場所を決定っていうのをしていけばいいのかなというふうに思ってます。

また、現場の先生方の声であるとか、いろんな方の意見もあると思いますので、そういったところも聞きながら進めていただけたらいいのかなというふうに思います。

【大江町長】

はい。ありがとうございます。そしたらですね、3小学校跡地と新小学校併設。このどこにはならざるを得ないと思うので、この4カ所で教職員、それから保護者へのアンケートを取ると。

【坂東委員】

個人的見解なんですけど、建てる場所はどこがいいですかいうアンケートは、教育委員会としたらあまり好ましくない。結果が全然わからないんで、理想は、例えば4ヶ所でアンケートをとって、7割8割はここがいいというのが出たらお墨付きが出てるんですけど。例えばですね、苗羽が3割、統合小学校が3割、わからないが4割あったりしたら、結局、なかなかアンケート取るにも時間を要しますし、当然どんな教育するかどんなふう

にするか、そのあたりについては、せいけんじさんが行っているような内容も皆さんご存じだと思うんで、そのあたりを参考に、場所を決めて建設する期間が当然 2 年とかかかりますので、そのあたりについては当然、現場の幼稚園教諭・保育士、また保護者の意見を聞きながら進めていきたいと思いますけど、できれば建設場所についてのアンケートは取らずに、この場で決めていきたいというふうに考えています。

【真砂委員】

ちょっといいですか。星城幼稚園の方に集めて、実際やっていますよね。そういう現実から考えて、集まって、子どもが来たり、今の現状というのは、そこに勤められている先生がよくわかっているのかなあと。

そういうふうなアンケートじゃなくて、意見を聞くというかね、そういう何かこうどっちがいいとかじゃなくて、今の現状的にこういうことがある、あると困るとか、こんなことが困るとか、こういうふうなことがして欲しいとか。そういうあたりをちょっと聞いていただいて、参考にするというぐらいはしてもいいんじゃないかなあとと思います。

【大山委員】

私も具体的に、場所がどこがいいかというふうに聞く必要はないかなとは思っていますけれども、再編についてどのように考えますかとか、ざっくりとした形で保護者に聞いてみて、その中にいろんな意見が出てくるのではないかなと思うので、出てきた意見をすべて取り上げるのではなくて、それをまた精査していくっていうふうな形で、全く何も聞かずに進めてしまうよりは、聞いた上でやっぱりニーズに応じていくっていうのが必要なのかなっていうふうに思います。

【大江町長】

今、大山委員が言われたように、場所とか、そういう個別に聞くのではなくて、もっとフワッと広く意見をいただくという形のアンケートを、教職員の先生、それから保護者の方々に取っていただいて、あくまでも今回は、この 4 つ以外はありませんよということにさせていただいて、できるだけ絞って、それぞれの土地のデメリットとかメリットについても、もう少し細かく事務局の方で作っていただいて、次回またご意見をいただくということでもよろしいですかね。

【複数の委員】

はい。

【大江町長】

はい。ありがとうございます。活発な議論ありがとうございました。

今回の会議はこれで終わりたいと思います。また次回よろしくお願いします。

【古郷課長】

それでは以上をもちまして、第 29 回の小豆島町総合教育会議を閉会といたします。大変お疲れ様でした。